

## 【実践報告①】

# 自己理解から主体性へ

一生徒が自己理解を深め、主体的な進路選択ができる支援体制づくりー

愛知県立一宮起工科高等学校

## 1 はじめに

愛知県立一宮起工科高等学校昼間定時制は、1999年（平成11年）に発足し、1年生3クラス、2年生3クラス、3年生3クラス、4年生1クラスの計10クラスからなる小規模な学校である。在籍生徒の多くは、一宮市、稲沢市から登校している。

本校の目指す生徒像は、「基本的な生活習慣を身に付け、自主的・自律的に行動することができる人、自他を尊重し様々な考えを認め合うことができる人、向上心を持ち努力することができる人」である。

その実現に向けて、教育相談体制の充実を基盤とし、基礎学力の向上、基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成、キャリア教育及び体験的な学習の充実を重点目標として、日々の教育活動を展開している。また、本校の進路状況の特徴として、卒業後に就職する生徒は約6割、大学等への進学する生徒は約3割を占めている。進路指導部を中心に、きめ細やかな就職指導や進学指導を行い、生徒一人一人の多様な進路希望に応える指導体制を整えている。

【資料1 支援スケジュール】

## 2 実践研究内容

### (1) 研究の概要

本研究の目的は、通級による指導を受ける生徒に関する情報を校内で共有する仕組みを整備し、生徒の自己理解への深化と、教員による一貫した支援体制の構築を図るとともに、進路指導の連携を一層充実させることである。

	1年次	2年次	3年次	卒業後
自己理解	個人面談(4月・11月)、クレベリン検査			
主体的な進路選択		・通級(SST)	・通級(SST)	
移行に向けた取組		進路行事、企業展、体験授業	総合的な探究の時間(しごと体験等)	総合的な探究の時間(企業説明会等) ・職場見学
			・就職ガイダンス	・プロフィールシート作成 ・職場訪問

本校では、2・3年生の希望者を対象に、ソーシャルスキルトレーニングを中心とした通級による指導を実施するとともに、職場見学や企業展などの進路行事を通して、生徒が自らの特性を踏まえた進路選択ができるよう支援してきた。しかし、通級による指導を受ける生徒の実態や支援の視点について、教職員間で十分に共有されていないという課題があった。

そこで、本研究では、支援スケジュール（資料1）に基づいて実践を行い、全教職員が参加する会議において通級担当教員が生徒の状況を報告する取組を導入し、教職員の共通理解を促進するとともに、生徒理解に基づく組織的・継続的な支援体制の構築に資するかを検討することとした。

### (2) 三つの取組について

#### ア 自己理解を深める取組

年2回実施している進路希望調査に自己理解シートを添付し、生徒が自らを振り返り、自己の特性を理解する力を育成する機会を設けた。

自己理解シートの活用には、主に次の三つのねらいがある。一つ目は、生徒が自分自身の特性や能力を認識することである。二つ目は、継続的に実施することで生徒の変容を把握し、今後の指導の改善や充実につなげることである。三つ目は、他者評価を取り入れることにより、生徒自身の自己理解を一層

深めることである。資料2は、生徒Aの自己理解シートである。4月に実施したものと10月に実施したものを比較すると、生徒が自らの成長を実感している様子がうかがえる。また、個人面談や通級の授業を通じて、自分ではできていると考えたことが、実際には十分ではなかったと気付く場面も見られた。この取組を通じて、生徒は自己理解を着実に深めた。

### 【資料2 生徒Aの変容】

4月		10月	
～働き続けるために必要なこと・社会人としてのマナー～		～働き続けるために必要なこと・社会人としてのマナー～	
② ルールを守る。	<input type="checkbox"/>	② ルールを守る。	<input checked="" type="checkbox"/>
③ 清潔な身だしなみに気をつける。	<input type="checkbox"/>	③ 清潔な身だしなみに気をつける。	<input checked="" type="checkbox"/>
④ 体力がある。病気になるように自分で気をつけている。	<input type="checkbox"/>	④ 体力がある。病気になるように自分で気をつけている。	<input checked="" type="checkbox"/>
⑤ あいさつや返事をはっきりする。	<input type="checkbox"/>	⑤ あいさつや返事をはっきりする。	<input checked="" type="checkbox"/>
⑥ 指示や注意されたら、素直にしたがう。	<input type="checkbox"/>	⑥ 指示や注意されたら、素直にしたがう。	<input checked="" type="checkbox"/>
⑦ 自分より年上の人などに、丁寧な言葉遣いをする。	<input type="checkbox"/>	⑦ 自分より年上の人などに、丁寧な言葉遣いをする。	<input checked="" type="checkbox"/>
⑧ 周りの人と合わせたり、協力して行動する。	<input type="checkbox"/>	⑧ 周りの人と合わせたり、協力して行動する。	<input type="checkbox"/>
⑨ 作業が終わった時や困ったことが起きた時に、そのままにせず、報告できる。	<input type="checkbox"/>	⑨ 作業が終わった時や困ったことが起きた時に、そのままにせず、報告できる。	<input checked="" type="checkbox"/>
⑩ 分からないことがあるときに質問する。	<input type="checkbox"/>	⑩ 分からないことがあるときに質問する。	<input checked="" type="checkbox"/>
⑪ 期限に気をつけて作業(行動)する。	<input type="checkbox"/>	⑪ 期限に気をつけて作業(行動)する。	<input type="checkbox"/>
⑫ 作業をするときに、余計な話や関係のないことをせず、集中して行う。	<input type="checkbox"/>	⑫ 作業をするときに、余計な話や関係のないことをせず、集中して行う。	<input checked="" type="checkbox"/>
⑬ 道具や書類を丁寧に扱う。	<input type="checkbox"/>	⑬ 道具や書類を丁寧に扱う。	<input type="checkbox"/>

生徒が自らの成長を実感している様子がうかがえる

自分ではできていると思っていたことが、実は十分にできていなかったことに気付くことができた

次に通級による指導における実践について述べる。通級による指導では「社会生活に必要な挨拶や言葉遣い、一般常識などを身に付けること」「話し方や声の大きさ、話の順序などに気を付けて会話ができること」「卒業後の生活に向けて準備すること」の三つを年間目標として設定し、ソーシャルスキルトレーニングを中心にさまざまな取組を行っている。また、生徒自身が1年間の目標を立て、定期考査ごとに振り返りを行うことで自己理解を段階的に深めている(資料3)。通級による指導では、「1週間のできごと」として、1週間の中で心に残った出来事をまとめて発表し、他者からの質問を受けながら、話し方や聞き方について学ぶ活動を行っている。資料4では、4月に比べ、7月に実施した方が豊かな表現で自分自身のことを伝えることができるようになっていたことが読み取れる。その他、自己紹介プリントや身だしなみについてのワークシートに取り組むなど、自分自身を振り返る機会を設け、自己理解の深化を図っている。

### 【資料3 通級による指導の目標と振り返り】

1年間の目標 目上の人と話す時よく話したいです。声もよく聞き取れたいです。

#### 振り返り(前期中間)

前よりも成長を感じていますので次は目と声の大きさとスロースピードで話せるようにしたいです。

#### 振り返り(前期期末)

前も目があうようになってきました声が入る事が多くなり大きくはなれたいです次は話すスピードを速くすることです。この辺りは得意なので成長に期待しています。

#### 振り返り(後期中間)



るとともに、仕事の現場を見学する行事を実施した。生徒Cのワークシートからも、進路先への理解が深まっていることが読み取れる（資料6）。

【資料6 生徒Cのワークシート】



職場見学の様子

職場見学 アンケート 訪問した職場 株式会社

1. 今回の職場見学はどうでしたか。○を1つ、つけてください。また、どんなところが良かったか（良くなかったか）、具体例を挙げてください。

①とても良かった    ②良かった    ③あまり良くなかった    ④良くなかった

良かった点  ②

良くなかった点  ③  ④

良かった点  
染色理理加工とはどういうのなのかが、染色の工程を詳しく知ることができました。

良くなかった点

2. 質問しなかったことがあれば、書いてください。

3. 本日の感想をしっかりと書いてください。

普段着ている衣服がどんな工程で作られるのか、店に並んでいるのか、動画や実習作業しているところをモニターはどのような機械で作られるのか知ることができました。中でも染色の色を糸と合わせることができるとは、なかなか思いません。

他にも、全校生徒を対象とした進路行事を年3回実施した。6月には1、2年生を対象に企業説明会を実施するとともに、3・4年生の就職希望者を対象に企業の方による会社説明や面接練習を行った。また、進学希望者を対象に、学校比較説明会を実施した。11月には就職希望者を対象に企業展を実施し、約20社の企業担当者に来校してもらい、説明会を行った。生徒は、その中から3社を選び、説明を聞くことができた。3月には進学希望者を対象に体験授業を実施し、6校の大学や専門学校の職員が来校して、体験的な授業を行い、生徒は2校の体験授業を受講することができた。

ウ 進路先への移行に向けた取組

進路先への移行に向けた取組の一環として、生徒の特性や強み、これまでの学びと成長の過程、及び配慮事項を企業と共有するための「プロフィールシート（資料7）」を作成した。本人及び保護者の同意を得た上で、校内で蓄積してきた生徒理解の情報を基盤とし、企業側が生徒の具体的な姿をイメージできるよう情報を整理した。これにより、企業との相互理解を深め、生徒が新たな環境へ安心して踏み出せるための基盤を構築した。

また、教員が卒業生の就職先へ訪問し、実際の

【資料7 プロフィールシート】

フリガナ 氏名		生年月日 年齢	
住所		通勤手段 時間	
障害名 障害手帳			
通院先 通院頻度		服薬	
学歴・職歴			
資格			
障害内容			
長所・得意			
短所・苦手			
配慮点			
支援機関			

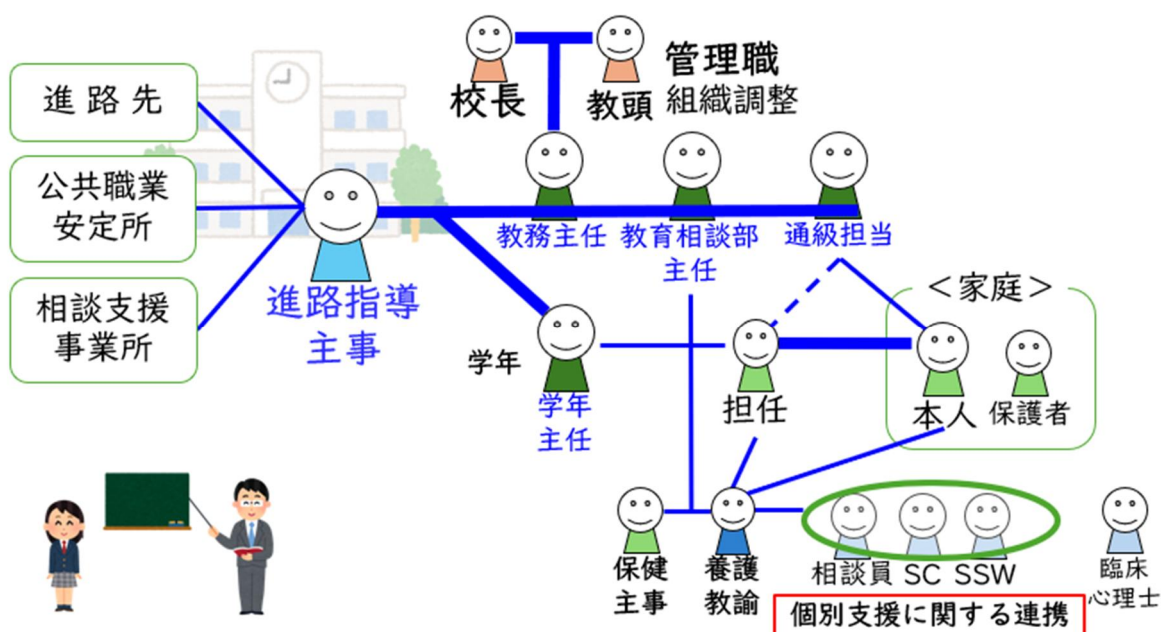
※個人情報のためお取り扱いにはご注意ください。 □上記、確認しました。

業務の様子を見学するとともに、企業の担当者より、入社後の出勤状況および業務内容について説明を受けた。あわせて、本人の日々の業務への取組状況や勤務態度、仕事の進め方等についても具体的な報告を受けた。

### (3) 校内支援体制づくり

本校では、進路指導主事を中心に、進路先の企業や大学・専門学校との連携を構築するとともに、公共職業安定所や就労支援機関など外部機関との連携を図っている。また、学校生活において気になる生徒については、教育相談連絡会を実施し、学年や担任を中心に学校全体で情報を共有しながら、一人一人に応じた指導ができるよう努めている。さらに、本校には教育相談事務員が常駐しており、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーも週に1回程度勤務するなど、充実した相談体制が整えられている。加えて、教員を対象とした教育相談日を設け、生徒への教育相談に対して臨床心理士から助言を得ながら事例研究を行うなど、職員のスキル向上にも取り組んでいる（資料8）。

【資料8 校内ネットワーク（校内支援体制）】



### 3 実践の成果と課題

本研究の成果として、通級による指導を通して、生徒が自らの能力や特性を理解する力を育てることができた点が挙げられる。また、通級による指導を受ける生徒に関する情報を、全職員が参加する会議において通級担当教員から報告する体制を整えたことで、職員間の情報共有が円滑になり、生徒の自己理解を支援するとともに、学校全体で継続的に支援していくための基盤を構築することができた。

一方、今後の課題としては、深まった自己理解を、生徒一人一人の能力や特性に応じた進路選択へとつなげていくことである。そのためには、生徒が自ら進路先について理解を深め、主体的に進路を考える力を育成するとともに、最終的に生徒自身に適した進路を選択できるよう、学校全体で一層の支援体制を充実させていく必要がある。



【別紙2 支援スケジュール(学年)】

愛知県立一宮起工科高等学校 (昼間定時制)

特別な支援を必要とする子どもの卒業後の生活へのスムーズな移行に関する研究 (支援スケジュール)

略称	
研究推進 3つの柱 (取組)	①理解 自己理解
	②選択 主体的な進路選択
	③移行 進路先への移行に向けた取組

略称	
高めたい 資質・能力	理解 能力・特性を理解する力
	相談 自ら相談し、支援を求める力
	情報 進路先を理解する力
	選択 能力・特性に応じた進路を選択する力
	表現 能力・特性を表現し、伝える力

第3, 4 学年 (卒業予定者)

月	対象	取組	資質・能力					教育活動 取組内容 (行事等)	担当 (分掌等)	活用ツール等
			理解	相談	情報	選択	表現			
4月	全体	②				○	進路希望調査 (2, 3年)	進路		
		①		○			個人面談	総務		
		①	○				クレペリン検査	相談		
		①	○				HR委員 (前期)	生指		
	個別	①			○		第1回教育相談日	相談		
5月	全体	①		○			修学旅行 (3年)	生指		
	個別	①		○			第1回教育相談日	相談		
		②			○		第2回教育相談連絡会	進路		
6月	全体	②			○		進路行事			
		③				○	進学ガイダンス (3年)			
		①	○				第1回生活アンケート			
	個別	①			○		クレペリン説明会			
		②			○		進路情報交換会			
7月	全体	①		○			保護者会	総務		
		③				○	就職指導 (3年)	進路		
	個別	②			○		進路指導委員会 (就職)	進路		
8月	全体	③				○	就職指導	進路		
	個別	③				○	進学指導 (面談)	進路		
9月	全体									
	個別	①			○		第2回教育相談連絡会	相談		



～自分の特性について考えてみよう！～

高校生活が終わると、いずれ社会人として、働くことになります。どのような職業に就くとしても、「働き続けるために必要なこと・社会人としてのマナー」があります。下の表の「働き続けるために必要なこと・社会人としてのマナー」を読みましょう。そして、まずは「今の自分」がどうか考え、それぞれあてはまるところに○を書きましょう。

～働き続けるために必要なこと・社会人としてのマナー～		① できている	② もうすぐできるようになる	③ もっと頑張ればできると思う	④ これから頑張ろうと思う	⑤ 頑張っても難しい	担任 評価
①	欠席・遅刻・早退をなるべくしない。						
②	ルールを守る。						
③	清潔な身だしなみに気をつける。						
④	体力がある。病気にならないように自分で気をつけている。						
⑤	あいさつや返事をはっきりする。						
⑥	指示や注意されたら、素直にしたがう。						
⑦	自分より年上の人などに、丁寧な言葉遣いをする。						
⑧	助けてもらったときにお礼を言う。						
⑨	失敗してしまったときに謝る。						
⑩	周りの人と合わせたり、協力して行動する。						
⑪	作業が終わった時や困ったことが起きた時に、そのままにせず、報告できる。						
⑫	分からないことがあるときに質問する。						
⑬	期限に気をつけて作業（行動）する。						
⑭	作業をするときに、余計な話や関係のないことをせず、集中して行う。						
⑮	道具や書類を丁寧に扱う。						
⑯	道具や書類を整理整頓する。						
⑰	危険なことが分かり、危険なことをしない。						
⑱	休憩時間や休日を自分なりに楽しんで過ごす。						

★今のうちに、どの項目ができるようになりたいですか？ 複数回答OK ( )

★そのために、どのような努力をしたらいいだろうか？  
( )